

平成 25 年度第 1 回脳卒中地域連携施設研修会報告

さる7月25日・26日の2日間、脳卒中地域連携施設研修会が開催されました。急性期：島原病院9名、回復期：松岡病院13名、維持期：老健フォンテ12名で総数18名の参加がありました。

今回も参加者に好評で「各々の施設の特徴が理解でき、在宅復帰へ向けてチーム医療で取り組まれている様子が伝わりました。今後も継続してほしい。他のスタッフにも参加を勧めたい。情報交換ができ活用したい。」などの意見が聞かれました。今回を通して、これからは顔の見える連携ができる研修となりました。



島原病院では口腔ケアの実際や「やわらか食」の試食、新ICU、リハビリ室の見学を行いました。「やわらか食」は予想外においしかったと好評でした。徳永副院長を囲み、ランチオンミーティングでは全員が発言でき、今後各施設で、どのように取り組んでいくか情報交換ができました。



松岡病院ではリハビリと病棟との連携がとれており、情報共有のためにFMIの記録やADL表の活用など工夫がされていました。また、生活のあらゆる場面がリハビリの場ととらえ、リハスタッフが移乗動作等の統一を図るため、デモを実施されています。チーム医療を推進し、カンファレンスでは連携パスが活用されていました。



老健フォンテは広い空間の中で、利用者の方々はゆったりした時間を過ごされていました。浴室も寝たきりの方が入れる特殊浴やリフト浴、通所の方のための浴室など整備されていました。「老健は終の棲家ではない」と永石課長が老健の役割、在宅復帰へ向けて熱心に取り組まれている講義には目からうろこでした。通所リハビリの方が休憩できるベッドも準備されており、関連施設と協力して在宅生活支援にも努力されていました。